

——関係人口創出プロジェクト——

ボラ旅北海道 START GUIDE

地域に生かす、若者のチカラ。



NPO法人
ezorock

都市の若者と地域を結び 実際の課題解決に取り組みながら、 次の世代に生きる学びとつながりを育む プロジェクトです。

人口減少や担い手不足が大きな社会問題となっています。
そうした中、北海道の地域が抱えているさまざまな課題に対し、
都市の若者と地域の人々が一体となって課題解決に取り組むのが
「ボラ旅北海道」というプロジェクトです。
「若者」「地域」「企業・学校」「行政」をつなぐ架け橋となり、
それぞれと協働できるプログラムを創出しています。

“ezorock”は、「社会を揺り動かす」という理念のもと、2000年に行われた
「RISING SUN ROCK FESTIVAL」における環境対策活動」をきっかけ
に2001年4月に設立。青年層のネットワーク拡大とともに、北海道の地域
課題に対して、若者のアイデアやパワーを届ける事業を展開。活動を通し
て若者が自らの人生と社会を切り開いていく機会をつくり出しています。

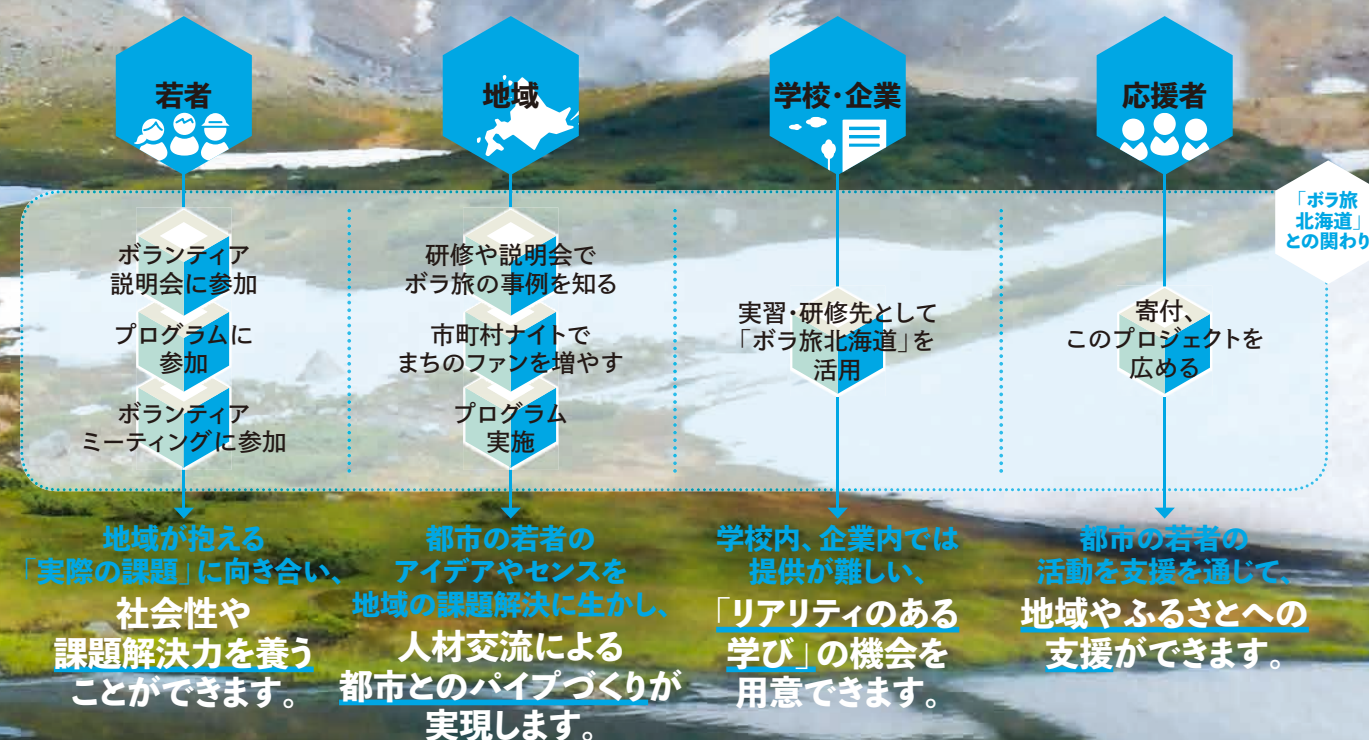
大樹町 地域資源発見ツアー
観光・体験活動に生かすための資源調査

栗山町「ふる里山くり山」里山づくりプログラム
里山の整備（沢の石組み、伐採材木の搬出）

北海道胆振東部地震における
子どもたちのための支援プロジェクト
（いぶきキッズ）
被災地域の子どもとふれあい

市町村ナイト
（長万部、厚真、占冠など）
全道の市町村から「まちづくり」に関わる人を招き
語り合う交流企画

これまでの
プログラム
（一部）



プログラム
実施の流れ

- 1 地域課題の解決を目指して、ezorockが地域の人々と共同でプログラムを作成。
- 2 都市の若者に呼びかけて参加希望者を募集。または授業や研修の一環で参加する教育機関や団体とマッチング。
- 3 若者ボランティアを現地に派遣。ezorockスタッフは活動がスムーズに展開されるようサポート。
- 4 参加者の成長と地域貢献（課題解決・活性化など）を実現。

NPO法人
ezorock

「ボラ旅北海道」とは？



《活動事例》大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト

大雪山の雄大さを全身で感じ、かけがえのない自然を守る。

活動の成果

2012年から活動を開始し、これまで約200名のボランティアが参加。

散策路や登山道の整備を行い、国立公園の自然保護に貢献。

多くの参加者に自然保護の意識が芽生えた。

参加者の一部が現地NPOに就職するなど、都市と地域の人材交流を実現。

日本最大の国立公園である大雪山国立公園内にある、北海道最高峰の旭岳にて「旭岳自然保護監視員」の方々と自然保護活動を行っています。ロープウェイで活動場所まで上がり登山・観光客に自然保護について呼びかけるレクチャーや、壊れた登山道の整備、高山植物保護のためのロープ張り等を実施しています。



参加者

自然の美しさは「当たり前」ではないと実感！

濱田 桜(Nickname:さく)

私が大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクトに初めて参加したのは、大学1年生の秋でした。コアシタッフである大学の先輩が活動に誘ってくれたのがきっかけです。参加を決めた理由は「登山道整備」という言葉のイメージが格好良く、「綺麗な景色が見られそう」だったから。

プロジェクトでは旭岳の標高約1600mにある散策路一帯の自然保護活動を行っています。旭岳には年間約6万人の人が訪れ、踏圧等による影響が深刻。私たちは、現地で働く自然保護監視員の皆さんと、植物を守るためのロープ張りや散策路の巡回、散策路及び登山道の整備、旭岳を訪れた方々へのレクチャー等を行っています。

活動に参加してみて、自然の素晴らしさやその自然は当たり前ではないということを知りました。また、ひとくりに自然保護と言っても、大きなものから小さなもの、直接的なものや間接的なものなど、さまざまな形があることを知りました。自然を利用する全ての人が自分に



できる形で少しでも意識を持ってくれるようになれば、これからの世界に美しい自然を残していくことにつながると思います。

地域の声

「NPO法人大雪山自然学校」
荒井 一洋さん



散策路の整備や維持管理には多くの人手が必要となります。一方、ezorockの皆さんは若者が自然体験できる場を求めている、お互いのニーズがマッチしたことからこのプロジェクトがはじまりました。多くのボランティアが関わってくれたことで、登山道整備がスムーズになったことはもちろん、このプロジェクトが環境保全を学ぶだけでなく、人材育成の場としても価値があることがわかってきました。先輩が後輩を指導したり、リーダーがチームをまとめたり。若い人たちが成長していく姿を見るのは私たちにとても良い刺激に。若者が持つ多様な視点や価値観をこれからの自然保護活動にも生かしていきたいと思います。



現地活動までの流れ

地域の課題 「登山道整備の担い手不足」

北海道最高峰・旭岳では登山客、観光客増加による踏圧問題などが深刻化し、整備に携わる担い手不足が問題に。

ezorockに協力依頼し、プロジェクト発足

若者が自然の中で環境保全を体験できる場を求めているezorockとニーズが重なり、本プロジェクトが発足。

若者ボランティアを募り 現地での活動開始

NPO法人大雪山自然学校の指導のもと、登山道整備の方法を学んだ若者が現地で活動をスタート。

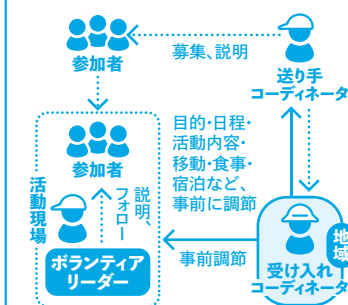
参加者の一部が コアシタッフとなり活動継続

継続して参加するボランティアの一部がコアシタッフとなり、新しいボランティアへの指導や育成を担当。

CHECK POINT

ボランティアリーダーの役割

ezorockのプロジェクトでは、過去に参加経験があるボランティアと初参加のボランティアがチームを組んで活動を行います。参加経験があるボランティアは「コアシタッフ」「ボランティアリーダー」等と呼ばれ、チームをまとめていきます。リーダー及び参加メンバーのそれぞれが責任と役割を自覚することで、効率の良い作業ができ、自己の成長にもつながる学びの多い活動を展開できます。





活動の成果

意見交換を通じて、標津町の皆さんが地元の魅力を再認識。

町の防災資材庫に若者のコミュニティスペースを併設させる案が浮上。

課題解決につながるとして、実現に向けた協議が進行中。

都市の若者の アイデアと情熱が、 地域のまちづくりを 動かす！

《活動事例》標津まちづくりプロジェクト



町の災害対策や若者のコミュニティづくり、観光振興などの課題を抱える標津町から「外から（都市部の若者）の意見を聞かせてほしい」と依頼を受けて、ezorockスタッフを含む若者ボランティアが標津町を訪問。町内の観光施設や漁港、防災施設などの視察を行い地元の皆さんと意見交換を実施しました。



参加者

旅行では得られない 濃密な3日間に感動！

松山 由実(Nickname: ゆーみん)

プロジェクトに参加する前は標津町について何も知らず、そんな自分がまちづくりのワークショップに参加して良いのか正直不安でした。ですが、しべつ未来塾の皆さんをはじめ、地元の方々が温かく迎えてくれたことで緊張が和らぎ、思い切って参加して良かったと思いました。

初めて訪れた道東の景色はとても新鮮で、標津町ならではの鮭の荷揚げ風景や風物詩である「鮭の無料配布」を間近で見られたことに大感動！地域の皆さんも丁寧に解説してくださり、他ではなかなか得られない経験だと感じました。

しべつ未来塾の方々と取り組んだまちづくり企画では「地元で暮らす人の視点」と「都市の若者の視点」から、さまざまな意見やアイデアを交換できたことがとても面白く、自分もこの町の役に立ちたいというキモチが大きくなりました。

標津で過ごした三日間はとても濃密で、少し前までは名前も知らなかった標津のことが、帰るころには大好きになっていました。標津の多くの方々に出会い、その場所での実際の生活を感じることで、この土地ならではの

魅力を実感できました。ボラ旅を通じて、普通の旅行では決して得られない経験ができたと思います。

地域の声

「しべつ未来塾」
太田 亮平さん



標津町が抱える課題の解決に都市の若者の意見を取り入れたいと考え、以前から交流があった

ezorockの皆さんに協力を依頼しました。若者ボランティアの皆さんには町の施設や観光名所を見学していただき、自分たちにはない視点からの意見や感想を聞いたことで町の魅力を見直すきっかけになりました。自分たちにとって特に収穫だったのが、町が管理する防災資材庫に若者のコミュニティスペースを併設するというアイデアを得られたこと。これが実現すれば、町の課題だった若者の集いの場をつくることができ、さらに災害に備えた資材の維持管理も可能に。現在は行政を巻き込んだ検討が進んでいます。



現地活動 までの流れ

地域の課題「防災や若者の コミュニティづくり」

災害発生時への備えが喫緊の課題であるとともに、地域に住む若者間の交流を促すことが町の課題に。

標津町からezorockに 意見交換の要請

都市の若者の意見を課題解決に生かすため「しべつ未来塾」のメンバーがezorockに協力を依頼。

若者ボランティアを募り 標津町を訪問、視察

ezorockが札幌近郊の若者ボランティアを募り、2日間の日程で標津町を訪問。観光施設や漁港などを視察。

意見交換を通じ、 若者のアイデアを地域と共有

これまで多くの災害ボランティアに取り組んできたezorockならではのアイデア、若者の意見を地域の皆さんと共有。

CHECK POINT

まちの力と関係人口

地域の持続性を守り、維持していくためには、まちの「中の力」と「外の力」の両方が必要です。中の力とは、地域の人が自分たちのまちのために行う主体的な活動を指し、まちの中だけではできないことは外の力をうまく利用していくことが大切です。外の力として期待されるのは「関係人口」です。関係人口は、そのまちに住んでいなくても、その地域に愛着を持ち、いざという時には駆けつけてくれるような人たちです。まちの力を高めながら、このようなつながりをつくっておくことが災害時にも大きな力を発揮します。



町の防災備蓄施設について意見を交わすボラ旅参加者と標津町の皆さん



若 者と地域を結びプロジェクトをつくるボラ旅北海道
が目指すのは、人と人を結びつける線がたくさんある
社会です。まちの中でも、まちとまちの間でも、人と人が
たくさん結びついている。そんな北海道を思っています。人
口減少や担い手不足が顕在化し、今後いつどこで大規模
災害が発生するかわかりません。でも、たくさんのつなが
りの線を持っている人や地域は、相互に助け合う強い力を
持っていると思っています。そのつながりは、短期間でつく
ることのできるものではありません。一緒に考え、一緒に
何かに打ち込むからこそ得られるものです。『いつものつ
ながりが、いざという時のちからに』北海道の未来の姿を
思いながら、関係人口創出プロジェクト「ボラ旅北海道」を
はじめてみませんか。



関係人口創出プロジェクト「ボラ旅北海道」は、
課題やニーズに合わせて
その地域に合ったプログラムをつくっています。
若者・大学・企業・地域と一緒にプロジェクトを進める
軸となるいくつかのパターンがあります。
周りの人を巻き込みながら
地域のこれからについて一緒に考えましょう。

まずは、お問い合わせください。



NPO法人
ezorock

NPO法人 ezorock
北海道札幌市中央区南9条西3丁目1-7

011-562-0081

info@ezorock.org

<https://www.ezorock.org/>

